

「情報通信新時代のビジネスモデルと競争環境整備の  
在り方に関する研究会」最終報告草案について

氏名 加藤 徹  
所属団体名 個人 社団法人 日本アマチュア無線連盟 終身会員

第三章 各レイヤーにおける競争環境整備の在り方

4 ページ目 4 行目

(1) の「固定系アクセス網の多様化」について意見を申し述べます

(1) 電力線搬送通信の削除は適切と思います

既存のメタル回線においてPLC(電力線搬送通信)が  
削除されたのは適切であると思います。

現在、総務省電波部による「電力線搬送設備に関する研究会」が  
行われておりますが、同研究会では、電力線に短波帯の  
PLCモデムの信号を重畳したとき、既存の短波通信に  
対する妨害が実験結果で指摘され、さらに実験を進めております。  
したがって実用段階にないものを削除したのは適切と思います。

参照

社団法人日本アマチュア無線連盟と社団法人電波産業会  
の電力線搬送通信に関する合同実験報告書  
「電力線搬送通信(PLC)ARIB/JARL合同実験報告書」(pdf)  
[http://www.jarl.or.jp/Japanese/2\\_Joho/2-7\\_plc/kenkyukai.htm](http://www.jarl.or.jp/Japanese/2_Joho/2-7_plc/kenkyukai.htm)

短波帯を使用する電力線搬送通信は、利用されている  
地域は、ほぼ例外なく「電力線が地中化」されております。  
我が国の地中化率は欧州に比して問題にならないほど  
低いものです。(下記URL参照)  
我が国のメタル線インフラで短波帯のモデムの信号を  
重畳すれば、漏洩電磁波が既存の短波通信に影響することが  
懸念されます。  
[http://www.mlit.go.jp/road/road/traffic/chichuka/chichuka\\_02.html](http://www.mlit.go.jp/road/road/traffic/chichuka/chichuka_02.html)

メタル回線の利用については、欧米の諸例からみると、  
基本的に電線については「地中化」、屋内配線については  
「遮蔽化」等の漏洩電磁波対策が必要であり、我が国の  
状況を今一度鑑みる必要があり、利用すべきメタル回線の  
社会的インフラ整備のための「コスト負担」についても検討した上で、  
利用の可否を判断すべきであり、その前提としてはメタル回線からの  
漏洩電磁波が「既存の短波通信・短波放送受信に影響しない形」  
での利用をお願いいたします。

平成13年6月21日 参議院 総務委員会 での  
「電力線搬送通信」に関する総務副大臣答弁参照  
<http://kokkai.ndl.go.jp/>  
から 「電力線搬送」 で キーワード検索 で閲覧できます。

(2) VDSLについては漏洩電磁波が既存の通信に影響しないように  
配慮した上で取り進めることが必要です

VDSLについても、同様に短波帯の信号を使用することから  
我が国の電話線は諸外国と全く異なり、  
屋内においてはコンジットパイプ等の遮蔽体を介していないこと、  
屋外において空中架線であることを十分考慮し、  
VDSLメタル線からの漏洩電磁波について既存の短波通信  
(無線局、短波放送の受信等)に影響しないことを十分確保した上で、  
取り進めることが肝要と考えます。

以上